



宮川絵里子は東京を拠点とするプロデューサーであり、数十年にわたり国際的に評価の高い作品を支えてきた。

マーティン・スコセッシ、クエンティン・タランティーノ、ローランド・エメリッヒ、マーク・フォスター、アレハンドロ・ゴンサレス・イニャリトゥ、ソフィア・コッポラ、チャン・イーモウなど、受賞歴のある数々の監督らと制作に携わるという非常に名誉ある経験を持つ。その幅広い実績には、『キル・ビル Vol.1』、『ロスト・イン・トランスレーション』、『バベル』、『ジョン・ラーベ ～南京のシンドラ～』、『君のためなら千回でも』、『金陵十三釵』、『沈黙 -サイレンス-』、『ゲートキーパー』、『ミッドウェイ』、『SHOGUN 将軍』などの代表作がある。ジョージタウン大学外交学院で文化と政治を専攻し理学士号を取得し、南カリフォルニア大学映画芸術学部ピータースタークプロデュースプログラムで映画制作の美術学修士号を取得している。